

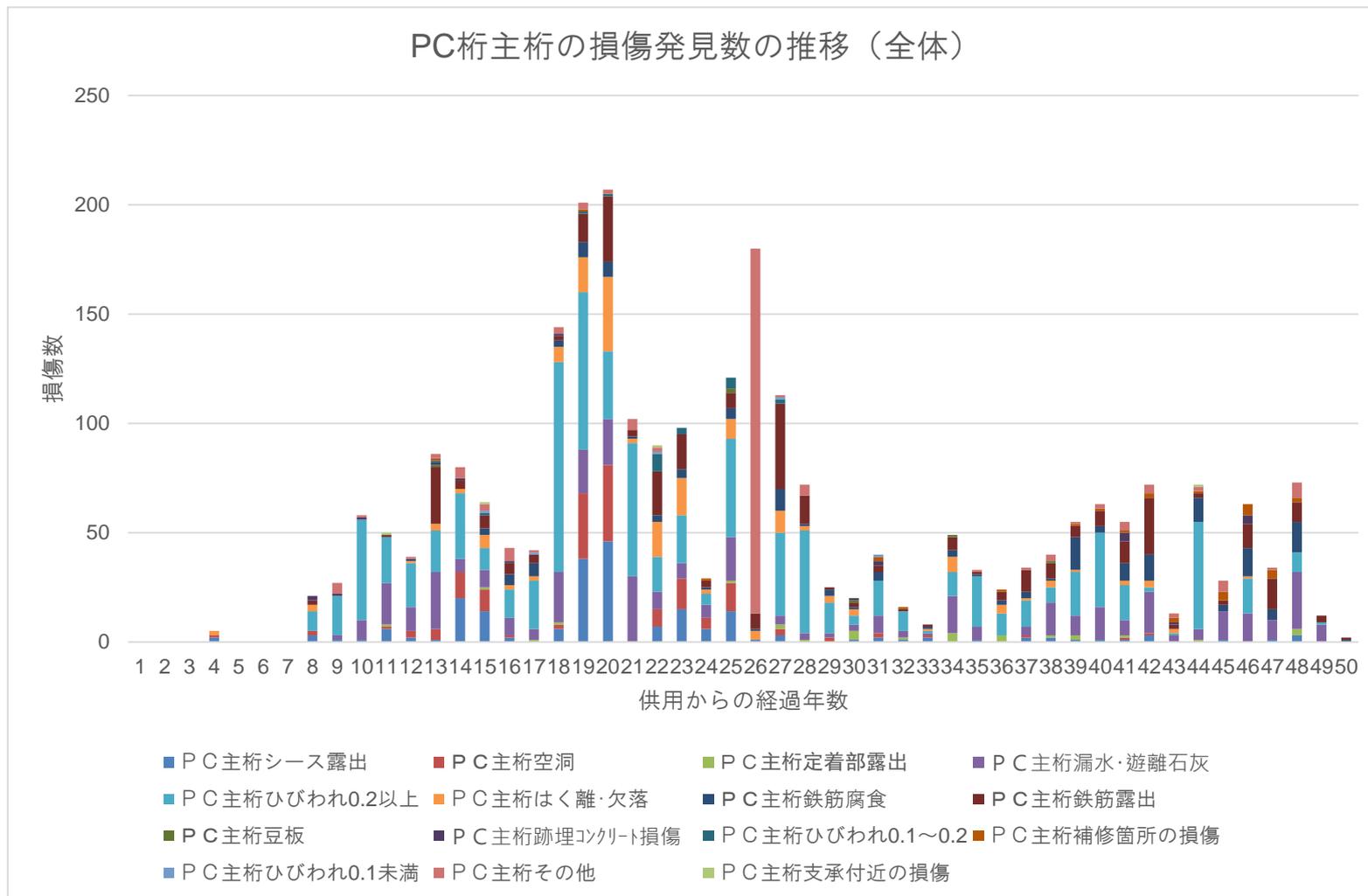
技術審議会
長期維持管理技術委員会(平成28年度 第2回)
平成29年 3月27日

維持管理計画に係るマネジメントシステム 高度化検討(RC床版・PC桁損傷状況)

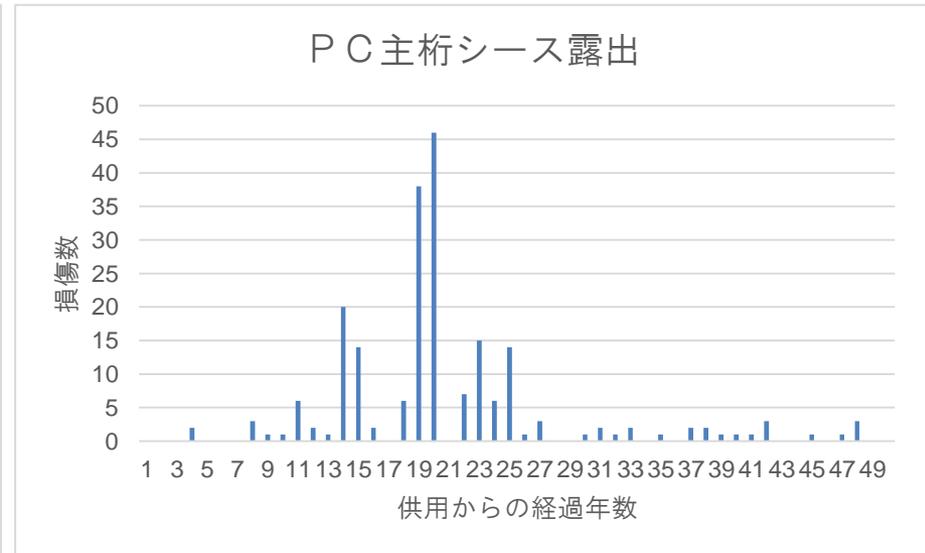
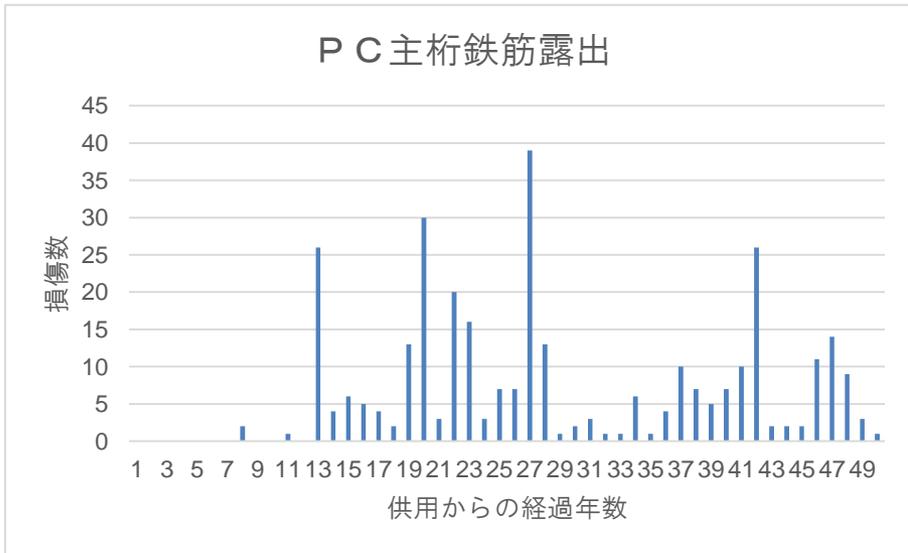
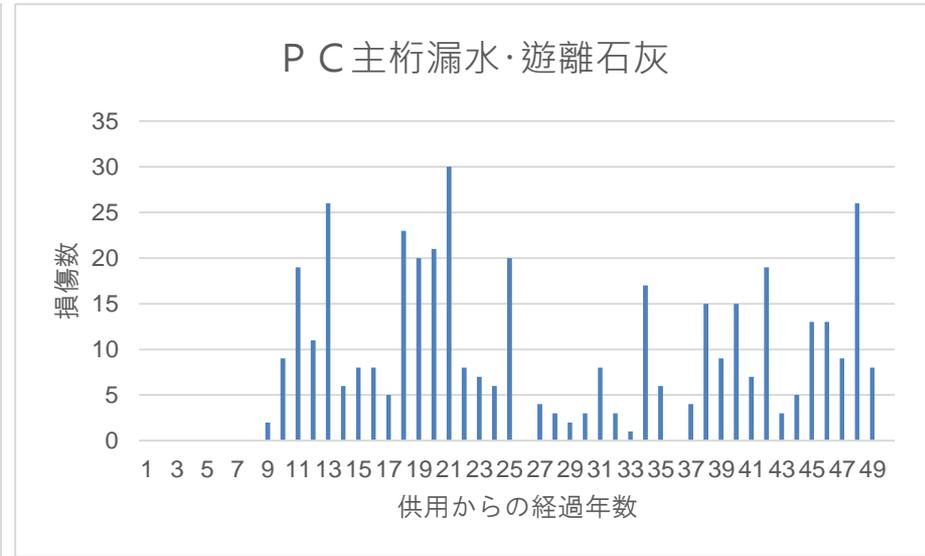
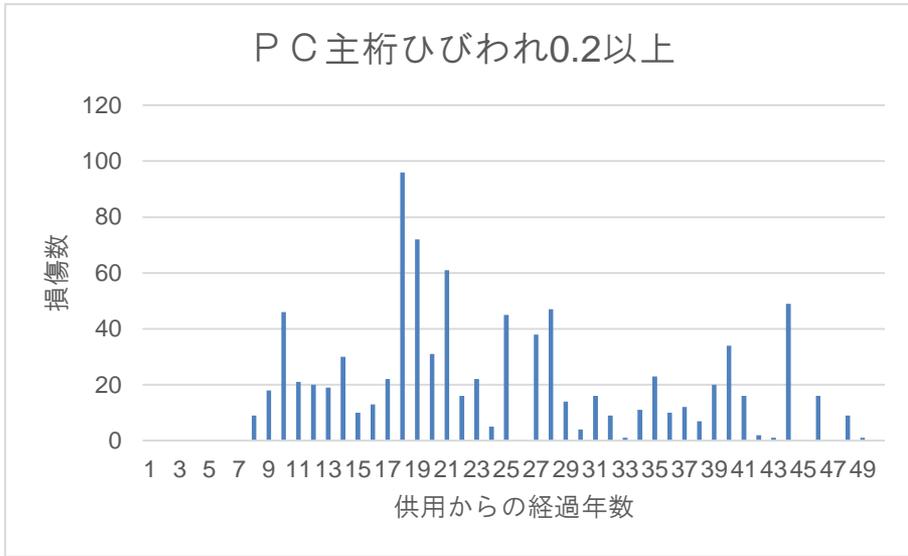
— 経過年数による損傷数整理 —

□ PC桁の経過年数による損傷発見数の推移

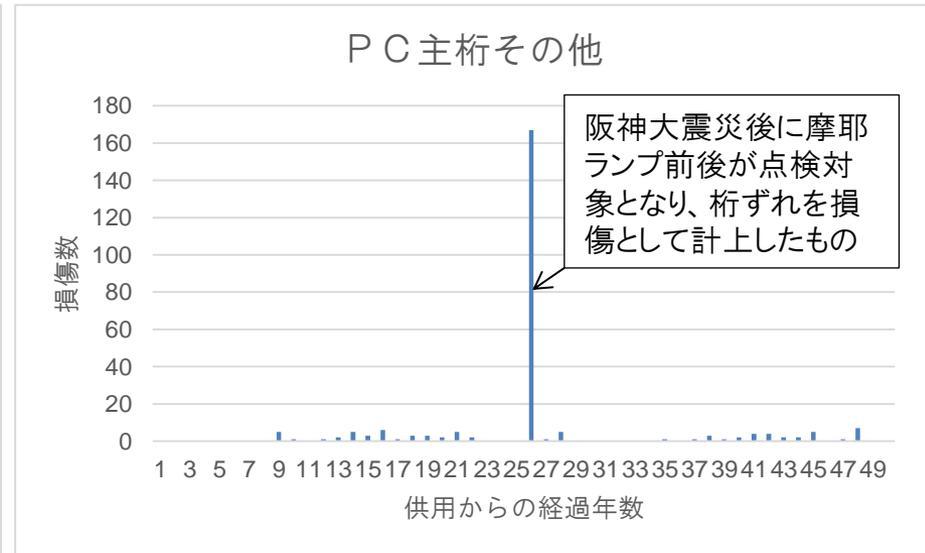
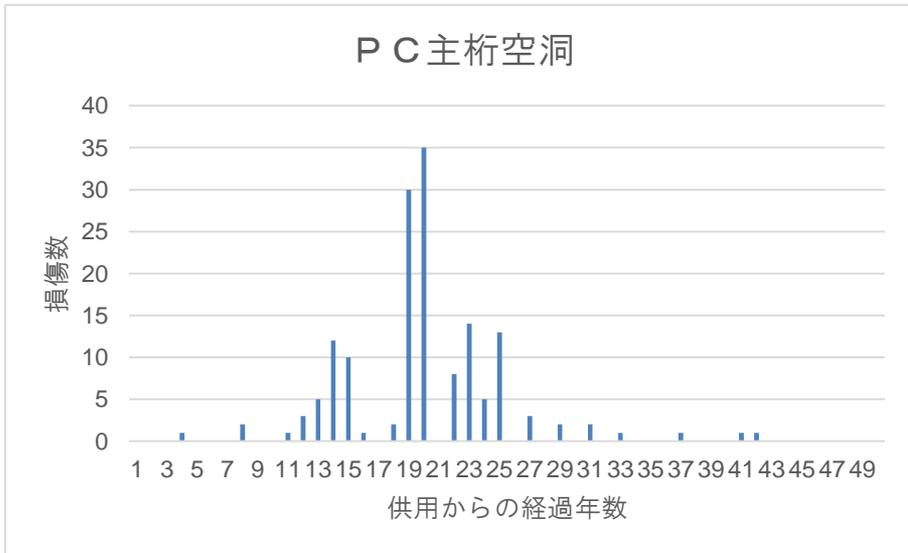
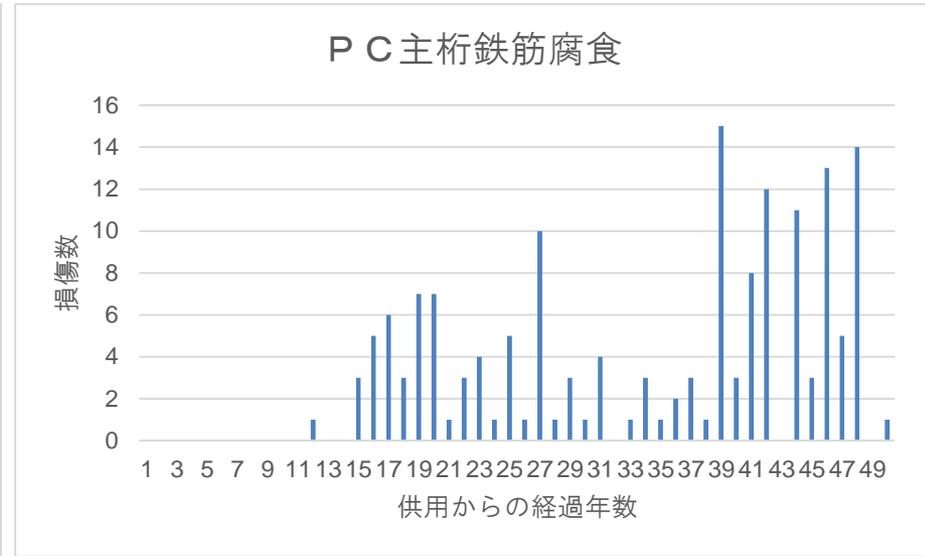
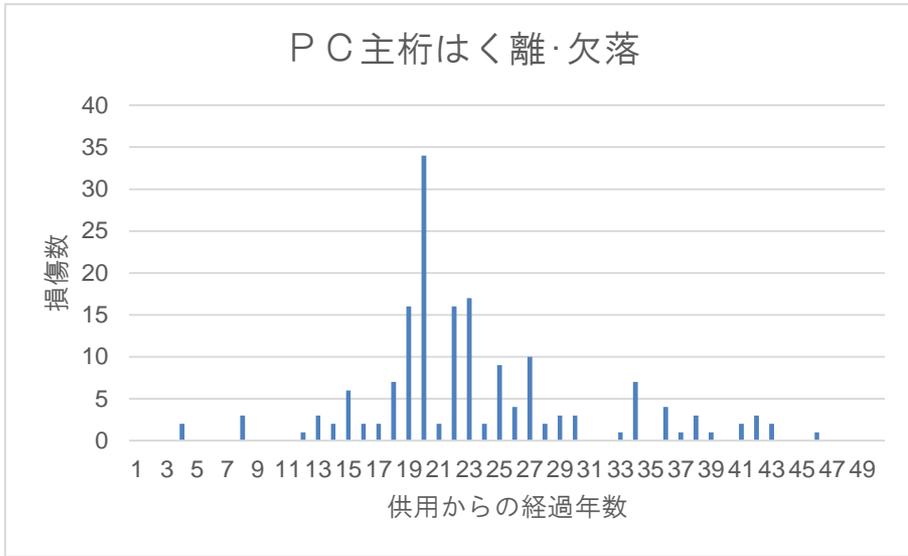
- 経過年数に応じた損傷分布の整理を行い、損傷タイプ別の発生状況を分析する。



〔損傷タイプ別の推移〕



〔損傷タイプ別の推移〕



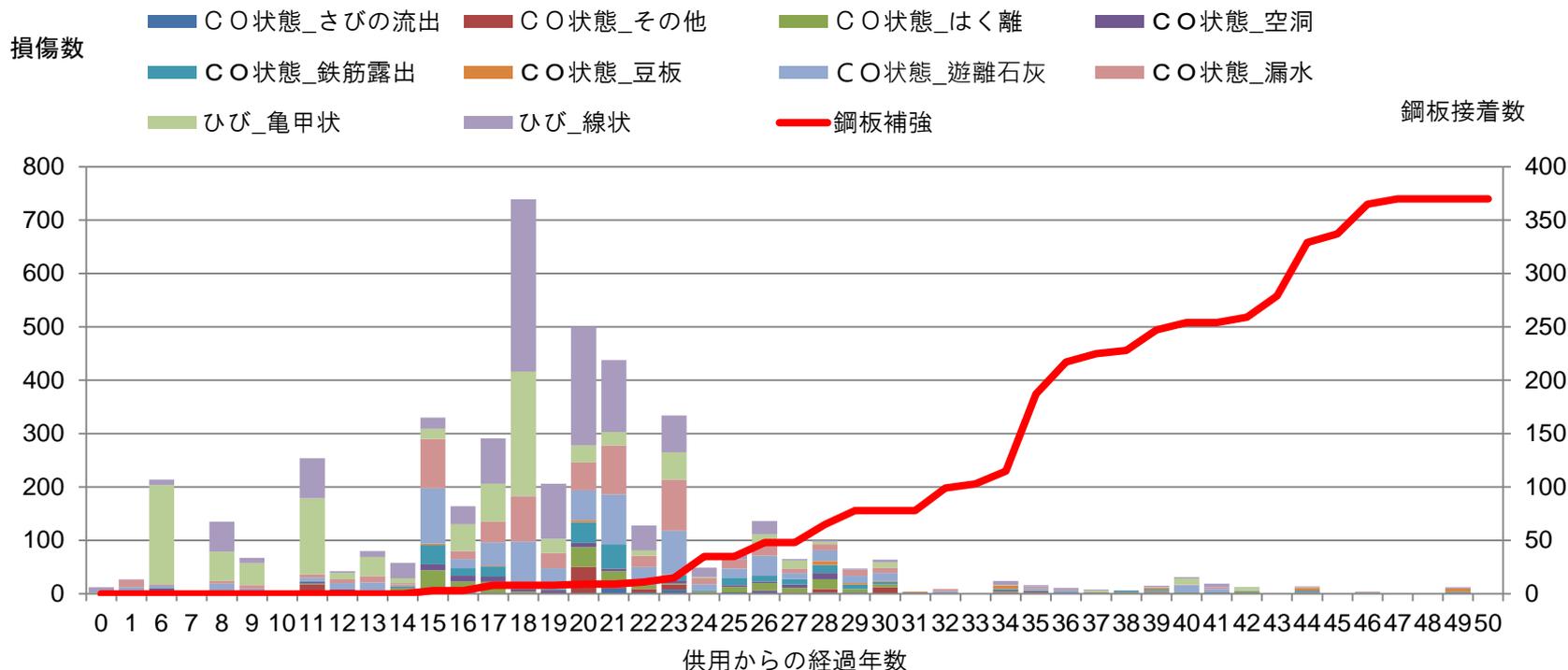
〔経過年数による損傷発見数の状況〕

- ・ 全体としては、供用後20年前後でピークがあり、一旦減少した後、増加傾向
- ・ 供用後20年前後で多い損傷は、「ひび割れ」「はく離・欠落」「空洞」「シース露出」
- ・ 「漏水・遊離石灰」は、供用後20年前後に多いものの、全期間に渡って損傷が見られる
- ・ 「鉄筋露出」は供用後20年前後よりもやや遅れて発生する傾向が見られ、「鉄筋腐食」は後年度に増加する傾向にある

RC床版の経過年数による損傷発見数の推移

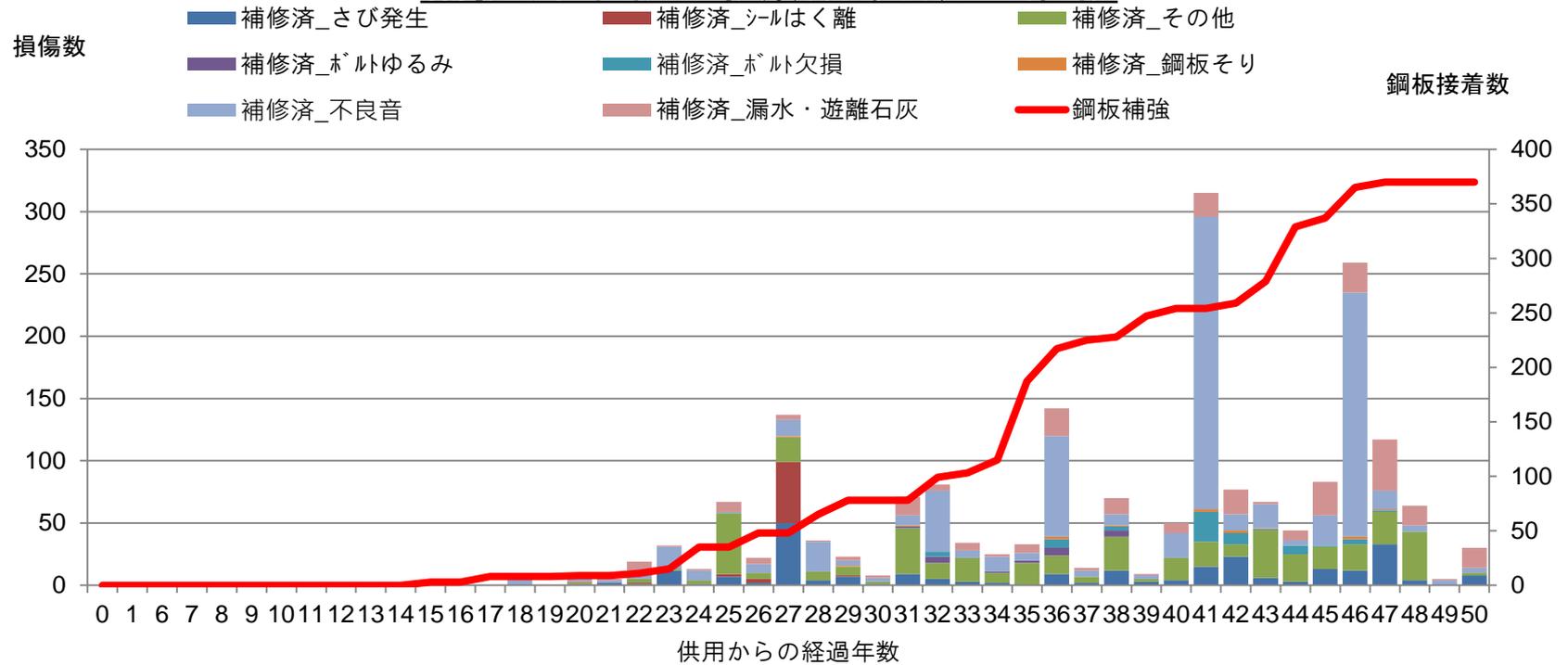
- 経過年数に応じた損傷分布の整理を行い、損傷タイプ別の発生状況を分析する。

コンクリート床版(未補強)の損傷発見数の推移

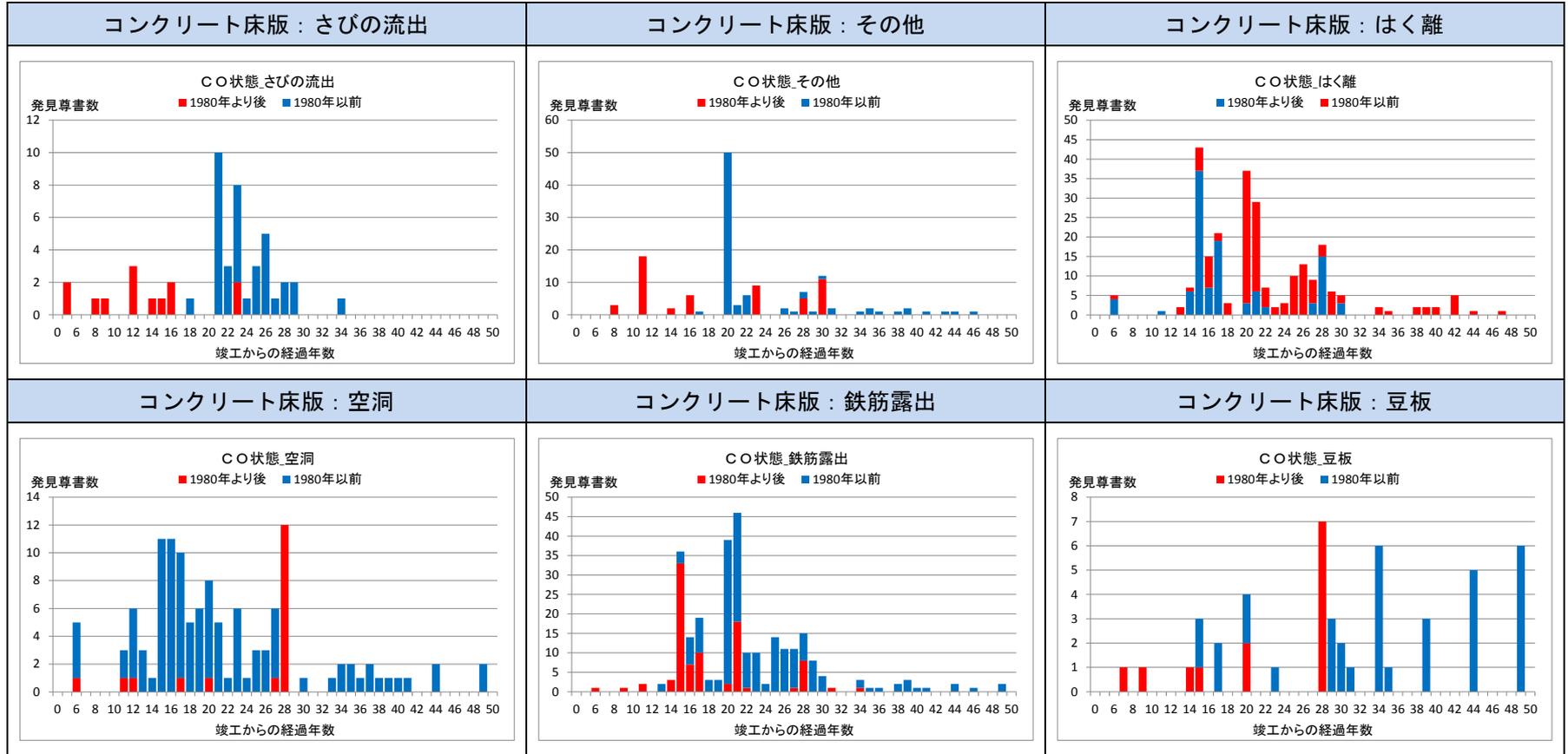


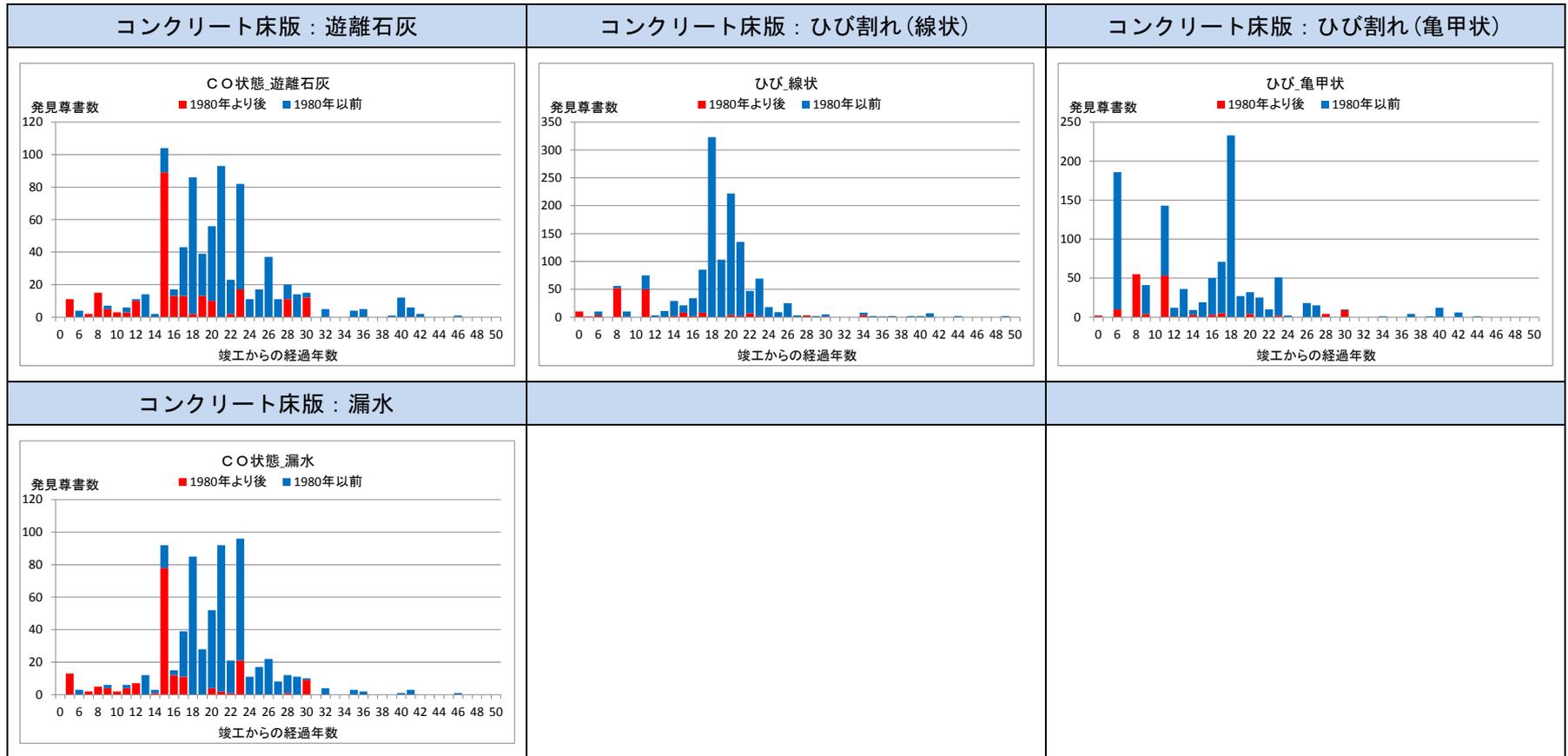
- 点検データはS60以降であり、供用から20年前後でピークが見られるものの、鋼板補強が進み、後年度の損傷傾向は把握できない

補強済床版の損傷発見数の推移

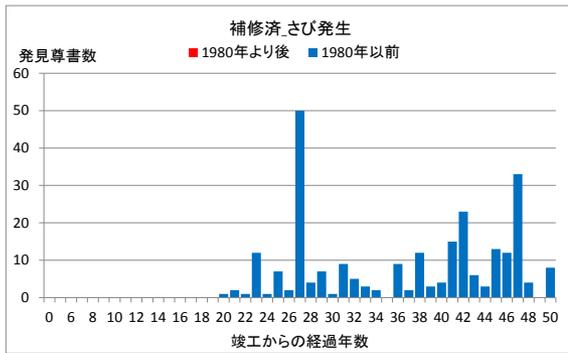


- 補強済床版は、供用後40年前後から「不良音」の発生が増加する時期があるが、明確な傾向は見られない

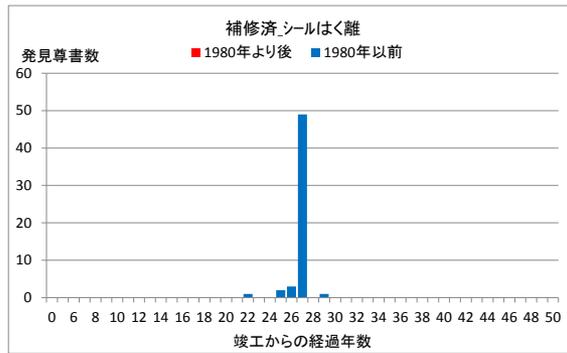




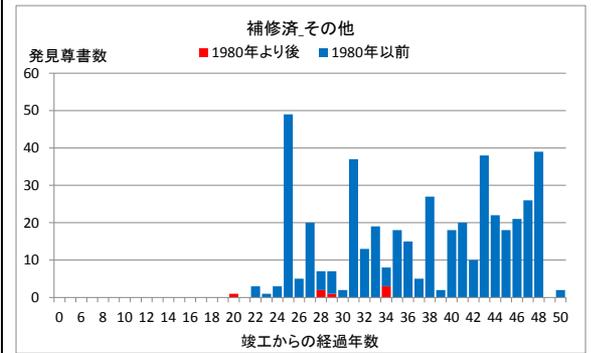
補修済：さび発生



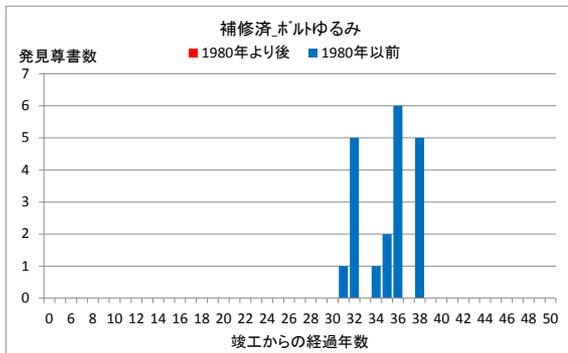
補修済：シールはく離



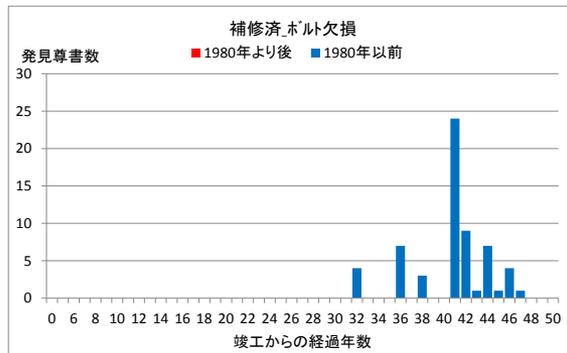
補修済：その他



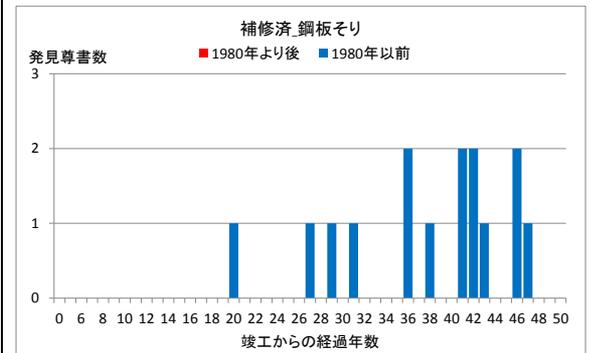
補修済：ボルトゆるみ



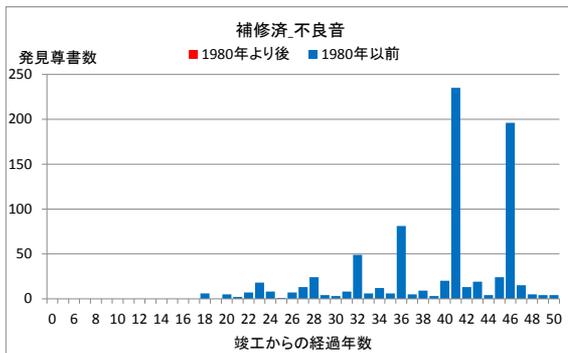
補修済：ボルト欠損



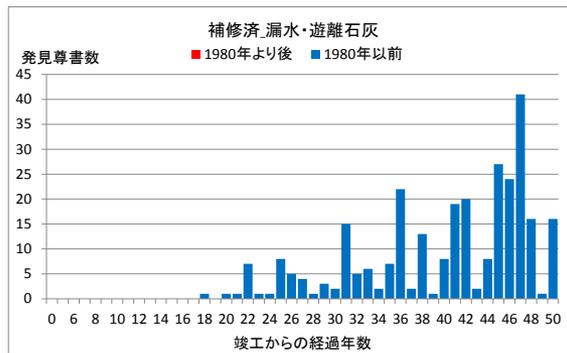
補修済：鋼板そり



補修済：不良音



補修済：漏水・遊離石灰



〔経過年数による損傷発見数の状況〕

- ・ 未補強床版のうち、1980年以前床版については、「ひび割れ」「漏水」「遊離石灰」は供用後20年前後に多く発生
「空洞」はそれよりも少し早め、「さび」は少し遅れて発生数が多い
- ・ 未補強床版の後年度の損傷傾向については、鋼板補強が進んだため把握できない状況
- ・ 補強済床版については、「漏水・遊離石灰」「さび」「不良音」が後年度に増加する傾向